

令和6年1月例会報告

- 日時 令和6年1月31日(水)
- テーマ 開運! 新春 浅草七福神巡り
- 集合場所 京成上野駅改札前
- 集合時間 9時00分
- 参加者 35名
- 距離 15キロ
- 解散 15時20分(浅草寺)
- 案内役 リーダー : 伊香賀 泰之
サブリーダー: 川村 泰久
: 小川 保子
: 鈴木 正一

■コース

京成上野駅⇒上野公園⇒矢先稲荷神社⇒吉原神社⇒鷲神社⇒石浜神社⇒橋場不動尊⇒隅田公園⇒今戸神社⇒待乳山聖天⇒浅草神社⇒浅草寺⇒浅草駅

矢先稲荷神社(福祿寿)

上野公園で朝礼、ラジオ体操を済ませ、最初に訪れたのが、「矢先稲荷神社」。この神社は、拝殿の中に入ることができ、福祿寿は拝殿正面左に祀ってありました。拝殿の天井には、神武天皇から今日に至るまでの、日本の乗馬の変遷を描いた「天井絵馬」が飾ってありました。



吉原神社(弁財天)

合羽橋道具街通を歩き、次に訪れたのが「吉原神社」。江戸時代、周辺に吉原の遊郭があったことから、そこで働く女性たちが信仰をよせていた神社として知られています。

弁財天は、神社から徒歩1分の飛び地に祀られており、芸術の神様であることから、社殿の壁一面には東京芸術大学の学生による壁画が描かれていました。
また、吉原遊郭の歴史を永く止めようと、地域有志の皆様による石碑が建立されていました。



鷲神社（寿老人）

吉原神社から歩いて5分の所にあるのが「鷲（おおとり）神社」。
この神社は、「酉の市」の発祥の地で、11月に行われる酉の市は日本最大とも言われています。酉の市には約750の出店が並び、熊手のお店は150店、80万人に近い人を動員し、大変な賑わいをみせます。
また、拝殿正面にある「なでおかめ」は、なでる場所によってご利益が異なるパワースポットとして人気です。みなさん、何を願ってなでたのでしょうか？



石浜神社（寿老人）

浅草七福神では、唯一、荒川区にある神社が、「石浜神社」です。
白髭橋のすぐ前に建っていて、隅田川の爽やかな風が感じられる清々しい立地です。
約1300年の歴史があり、1189年、源頼朝が奥州征伐の際に社殿を寄進しています。
七福神巡りも、12時をまわり、そろそろ皆さんもお腹がすいてきた頃ですが、もうひとふんばり頑張って歩きましょう！



橋場不動尊（布袋尊）

前半、最後に訪れたのが、「橋場不動尊」。布袋様が祀られています。地元の人たちは、この寺院を「火伏せの橋場不動尊」と呼んでいるそうです。過去に東京で何度も大きな火災が発生したにも関わらず、この寺院がある地域だけが被害を免れたからだそうです。

この後、延々と続く「隅田川テラス」を歩いて、昼食場所に向かいます。



石戸神社（福祿寿）

隅田川とスカイツリーを眺めながら、のんびりと昼食を済ませ、午後一番に向かったのは「石戸神社」。

招き猫発祥の地と言われる神社で、縁結びにご利益があるとして女性に大人気の神社です。縁と円をかけた丸い絵馬に願い事を書くのが人気で、たくさんの絵馬が神社の至る所に掛けられていました。

人力車に乗った若いカップルや、着物姿の女性など、たくさんの若者が参拝にきていて、いよいよ浅草寺も間近になってきたようです。



待乳山聖天（毘沙門天）

こちらのお寺では、境内のあちこちに大根と巾着のシンボルを見ることができます。

「なぜ大根？」と思うかもしれませんが、もともと清浄、淡白な味わいのある食べ物として多くの人に好まれ、体内の消化を助けるはたらきがあるところから、聖天様の「おはたらき」として供養に欠かせないとのこと。毎年正月7日に行われる「大根まつり」は有名ですが、お供え物の大根をもらった方もいて、大喜びでした。



浅草神社（恵比寿） 浅草寺（大黒天）

いよいよ最後は、日本有数の観光スポット、浅草神社と浅草寺に向かいます。

雷門から、仲見世通りは多くの観光客で賑わっており、やはり、外国人や着物姿の若者が目立ちます。異なる言語が飛び交い、まるで異国の地に来たようで、人込みを眺めているだけでも退屈しません。

七福神のオリジナル色紙を買った方も、ここで9つの御朱印が完成し、大満足の様子でした。今回の浅草七福神巡りは、ここ浅草寺で解散です。

皆さん、お土産を買ったり、周辺を散策したり、充実した一日を過ごされたことと思います。

お疲れさまでした！！



浅草神社



浅草寺